

けた秋の発表となった。

### 手立て③ 「気付きを広げる支援の工夫」

それぞれの発表のグループに分かれ、聞きに来た1年生と先生方に、どんぐり山で見つけた秋や作ったものを一人ずつ発表した。作ったものは作り方も教えてあげるように教師が助言した。聞き手に感心されたり、賞賛されたりしたことで、満足感を味わえたようである。中には、自分の思いを十分伝えられない児童もいたが、教師の問いかけや対話によって、活動や体験の中で気付いたことを表現することができるようになった。

お店が始まってからは、児童は夢中で活動していた。くじを引かせたり、輪投げをさせたり、どんぐり人形やしおりの作り方を教えて作らせたり、畑で穫れたとうもろこしで作ったポップコーンをプレゼントしたり、1年生も大喜びであった。

「先生にくじをひいてもらう児童」



「木の実や葉っぱなどでアクセサリーを作ったり、その他の材料と組み合わせを工夫したりして、作る活動を大いに楽しんだグループ」

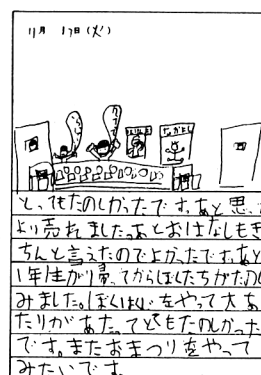
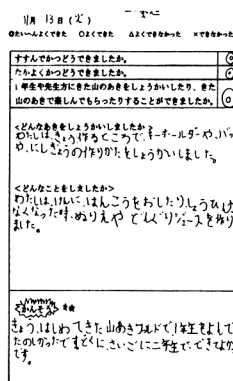


1年生や先生方が帰った後、2年生だけでお互いの店を訪ねた。くじや輪投げで楽しみ、作り方を教えあう中で、気付きはさらに広がった。

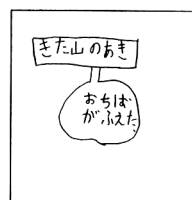
### 手立て④ 児童一人一人の思いをとらえる工夫

活動後に振り返りカードで活動を振り返った。

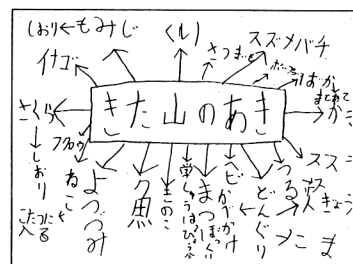
### 〈資料3〉



イメージマップを書き、事前に書いたイメージマップと比較した。〈資料4〉



10月5日



11月13日

「比較した感想」

きた山のあきを見つけるまえはあまりかけなかつたけどあきワールドとかどんぐり山に行ったら、いっぱいあきを見つけられましたとても、楽しかったです。

### (3) 考察

#### ① 児童一人一人の思いをとらえる工夫について

KJ法による活動計画作り(資料2参照)から始まって、探検活動、1年生や先生方を招待しての「きた山あきワールド」の準備、「きた山あきワールド」の実施まで、児童の様子(カルテ)や振り返りカードなどから、児童一人一人の思いをとらえ、それがかなえられるよう心がけてきた。その結果、活動に教師の予想を超える広がりや発展が見られた。児童の意欲は最後まで持続し、一人一人がその子なりの満足感